令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームなかがわ(西棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900108		
法人名	特定非営利活動法人いわて地域支援センター		
事業所名	グループホームなかがわ(西棟)		
所在地	〒029-0601 岩手県一関市大東町中川字中大畑97-1		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・常に笑顔で人生の先輩であるご入居者利用者様に感謝の気持ちを持ち、ご入居者様が生きがいを持って活き活きと生活できるようご支援しています。
 ・ご入居者様の思いや一人ひとりのペースで暮らしていただけるように、職員間で情報の共有化に特に力を入れています。
 ・ご入居者様に心配ごとや不安なことがないか常に耳を傾け、ご入居者様の立場に立ってご支援しています。
 ・できることはやっていただき、できないところは支援するよう自立支援に努めています。
 ・コロナ禍で、環境面での感染予防対策とワクチン接種の励行、職員の自粛行動など、感染者を出さない努力をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、廃校となった小学校校舎の1階部分を改装した施設であり、隣接する旧体育館は地域の指定避難所になっている。理念にある「笑顔」や利用者への「尊敬の気持ち」が職員に定着し、利用者が「できることの継続」と「生きがいを持った生活」の実現に向けた介護支援を実践している。コロナ禍による制限があるものの、地区の文化祭には実行委員会メンバーに参加し作品を出展するなどの取り組みを続けている。また、情報端末を活用したグループセッションによる情報共有が図られており、職員毎の情報伝達や研修にも活用されている。地元のかかりつけ医との連携が良く、訪問看護サービスの利用と併せて、医療連携体制が良く保たれ、看取りにも取り組んでいる。高齢化が進む中山間地域にあって、旧小学校を改装した当事業所は新たな地域の拠点となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を図るため玄関や談話室に掲示し誰でも見られるようにし、タイムレコーダー付近に掲示して出勤時と退勤時に確認できるようにし共有を図るようにしています。	開設当初に策定した事業所理念を分かりやすい言葉にした「職員の基本理念」があり、それに基づく「ケア目標」を定め、利用者の自立支援と生活の質の向上等に努めている。事業所内での掲示や、研修会での読み合わせを行、理念を再確認し職員全体で共有するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内で開催される文化祭への作品の展示や見学。地域の一員として回覧板を回しています。	コロナ禍の影響を受け、近隣との交流は難しい状態が続いているが、町内会に加入し回覧板で地域の情報を熟知している。地域の文化祭に参加し、実行委員会にも加わり、利用者の作品も展示されている。地元の神社からは奉納された野菜の差し入れがあり、地域の方々に大切にされていることが伺われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の受け入れはしていませんが、ホーム玄関などでお話を聞くなど、その都度対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度は9月に第1回目を開催し、推進委員にも参加をしていただき夜間想定避難訓練を致しました。その際にご意見などをお聞きしています。	書面開催が続いていたが、今年9月からようやく集合しての開催となった。メンバーは、地域協議会長や民生委員、地域包括支援センター職員等でバランスのよい構成となっている。参加してもらえなかったが、家族にも案内している。9月は避難訓練と併せて開催し、訓練の様子を見てもう良い機会ともなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種手続きの仕方などの指導をいただいたり、市の広報を入居者様用に毎月届けて頂いております。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しているほか、日常の業務では市役所支所の保健福祉課とのやり取りが多く、メールや出向いての相談・協議をさせていただいている。大雨時に高齢者避難情報が出されると、支所から状況確認の連絡を受けている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりません。法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い事業所内に掲示30年3月1日には身体拘束・高齢者虐待廃止指針を定め3か月に1回身体拘束委員が中心となり、チェックシートを活用しながら取り組んでいます。防犯のため夜間のみ施錠しています。	身体拘束廃止に係る委員会を3か月毎に開催し、職員は「チェックシート」を用いて自己評価を行っている。パソコンを活用した職員研修では、例えばスピーチロックに関する具体的な言葉の置き換えを考える内容も盛り込まれている。家族の了解を得て、転倒防止のためのベッドセンサーを10人ほどが使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を行っておりません。法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い事業所内に掲示し、30年3月1日には身体拘束・高齢者虐待廃止指針を定め3か月に1回身体拘束委員が中心となりチェックシートを活用しながら取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」などの冊子を職員に配布しているが活用されるまでには至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をもって説明をし、質問や疑問、要望をお聞きし、その上で理解納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の文書開催時には家族代表の方からのご意見をいただいております。通院報告時に電話で要望をお聞きしたり、利用料の受け取り時などに要望を伺うこともあります。入居者様とは普段の会話の中で意見や要望をお聞きしています。	家族とは電話連絡時や利用料の持参時、通院時などの機会をとらえて言葉を交わし意見を伺うようにしている。運営推進会議の開催案内も行っているが参加はあまりない。家族と話しても感謝の言葉をいただくことだけで、意見や要望が出されることは少ない。	家族からの意見を把握することは大切なことであり、アンケートの形で家族の意向を把握するなどの工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者を通して代表者に報告・相談し改善できるものは早急に改善するよう努めています。また、不定期で全体の職員会議や必要に応じて出勤者による職員会議を開催し、速やかに職員の意見を反映できるようにしています。	日常的に職員からは設備改善や修理などの意見が出され、その改善に努めている。パソコン上で個別に情報確認や書き込みができるため、管理者だけに相談することも可能であり、転職の相談も受けることがある。気になる職員には個別に声がけしている。	管理者と職員が個別に面談することは、職員にとっても大切な機会であり、年1回は個別の面談を行い、プライベートを含めて話し合うよう期待したい。

令和 5 年度

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者へ状況報告するとともに、定期昇給を実施したり休憩時間を確実にとれるようにするなど、職員が働きやすい職場環境の整備や必要な環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、毎月の行事担当を持ち回りで担当することとし、自主的に行事に取り組めるようにしています。また、資格取得のための受験料等を法人で負担するなど資格を取りやすい環境作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知高齢者施設グループホーム協会主催の研修会等に参加をしています。他施設の運営や研修で感じたことなどを復命書にて提出いただいて回覧し共有を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みの段階で家族様から生活歴を記入していただくようにし、また利用している居宅サービス事業所からも情報を収集して入居者様を知るようにしています。入居前に要望や不安などをお聞きしたり、馴染みの物をお持ちいただくなど、できるだけ今までの生活が継続できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みの段階で家族が様の介護への心配ごとやお困りのことなどをお聞きしています。現在は施設の見学等を制限しておりますので、パンフレットを見ていただいたり、口頭にて施設の紹介などを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様および家族様との信頼関係を築きながら入居者様、家族様の希望をお聞きするとともにADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。		

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や習わし、季節の行事など人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。家事や作業などで教えられたり支えられている部分が多々あります。入居者様一人ひとりの出来るところを見つけて家事を行っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時の報告時に様子をお伝えしたり、通院に同行いただいたり情報交換を行いながら家族の役割を担っていただき入居者様を共に支えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元的美容院に訪問してもらったり、かかりつけ医もできるだけ以前からのかかりつけ医に行くなど以前からの知り合いなどと交流できる機会を作るよう配慮しています。	コロナ禍のため家族以外の知人の来訪はなくなっている。地元の訪問理容師が3ヵ月毎に来てくれて、新たな馴染みとなっている。また、通院時に知人と会ったり、職員と馴染みのある月刊誌を見ながら、懐かしい事で話が弾むこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係について職員間で情報共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。また、職員が間に入りトラブルを回避したり、孤立をすることなく友好な関係が築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所する際に、家族の相談、事業所への連絡、調整を行いながら、いつでも相談に応じています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて意向、希望を把握できるよう努めカンファレンスやグループセッション(パソコン上で)で周知、情報交換をし、サービスに反映させています。	言葉で思いや意向を伝えられる利用者は、3分の1程度である。喫煙の希望者には職員が立ち会って対応し、男性利用者にはノンアルコールビールも提供して楽しんでもらっている。言葉で表せない方にも、職員から話し掛けて、職員作成の数字合わせゲームなどを楽しんでいる。	
----	-----	--	---	--	--

令和 5 年度

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みの段階で家族様から生活歴を記入していただくようにし、また利用している居宅サービス事業所からも情報を収集して入居者様を知るようにしています。入居前に要望や不安などをお聞きしたり、馴染みの物をお持ちいただくなど、できるだけ今までの生活が継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴などを元に一人ひとりの24時間を把握するようにしています。介護記録やグループセッションを活用し職員が情報を共有できるようにします。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の入居者様との会話の中や家族様との面談の中で意向を話あったり問題点や希望をカンファレンス時やグループセッションにて話し合い介護計画に反映させるとともにケアプランに基づくケアに取り組んでいます。	入居時には「施設に慣れる」ための暫定プランで始まり、短期で3か月、長期で6か月の目安でプランを作成している。居室担当制を採っていても、職員全員が利用者の状況を把握しており、モニタリングもケアマネを中心に職員全員で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をデータ化するとともにグループセッションや日誌で日々の様子や気づきなど情報を「見える化」し職員間での情報共有を図りながら支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様はもとより家族様も入居者を取り巻く環境要因の重要な一つと考えそれぞれの状況の変化に応じて、入居者様、家族様の要望をお聞きし管理者の判断やグループセッションの活用カンファレンスを通じてサービスの提供や変更を職員間で共有しながら行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの流行に伴い婦人会様や地域の皆さんとの交流は行えていませんが、今年再開した文化祭への作品作りと見学は行えました。また、巻き爪のひどい方には個別でフットケア(爪切り)の専門の方に訪問していただき対応しています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の希望されるかかりつけ医に受診していますが、かかりつけ医が変更になる際は入居者様と家族が納得の上で変更されています。	協力病院は県立病院であるが、多くの利用者が地元の沖田地区の内科医院をかかりつけ医としている。通院には職員が同行することが多く、家族への報告も適切になされている。看護業務は、週1回の訪問看護サービスを利用するなど、良好な医療連携体制が機能している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お医療連携を図り、訪問看護ステーションに毎週水曜日訪問を得て、健康チェックを行っていただいております。必要に応じて、訪問看護師に情報提供し相談しています。体調の変化を把握しながら、受診時のアドバイスや受診後の報告を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には家族様、医療機関と事業所間で情報交換に努め、入院時は薬の情報や生活の様子を伝え退院時は看護サマリーの提出もお願いすることにしてあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を家族に配布するとともに、職員にも周知を図っています。想定される家族様とは、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から事業所でできることについて十分に説明し話し合っています。	重度化した場合には、家族とも良く話し合い、その意向に沿って、入院や特養ホーム、老健施設への変更を支援するほか、このままホームで、あるいは病院からホームに戻りたい、戻らせたいとの希望に応じている。地元内科医の協力が得られ、これまで4人の看取りを行っており、現在も1人が対象者となっている。看取りをテーマとした職員への研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応するマニュアルを整備し、緊急時の救急車の要請や家族連絡の仕方話し合い職員で情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を年2回開催しています。地元の消防団の防火点検も行われています。	廃校となった校舎を活用した施設のため、建物は堅牢である。隣の体育館が避難場所に指定されているが、トイレが和式であるなど利用しにくい。高年齢者避難の場合でも、浸水の危険性がないこの場に留まる予定である。年2回の防災訓練を実施し、食料等も備蓄している。電気は車両から取得できる。夜間の場合、近隣に住む職員が、夜勤の2名ともに対応することが可能な体制である。車イス使用者が半数以上入居していることが、発災時の課題と認識している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規定及び運営管理規定に基づき、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声掛けを行うよう配慮しています。入居者様の声に耳を傾けるようにし、大きな声や命令口調にならないように心掛け入居者様の気持ちや誇りを傷つけないよう、また不安な気持ちにさせないよう支援しています。	理念に掲げる「利用者への尊敬」の念を込め、声掛けは「さん」付けとし、記録では「様」で統一している。居室入室時のノックや、トイレ誘導時の小声での声掛けの配慮などは、職員に定着している。また、入浴時の着替えでも、周りから見えないように配慮し、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定がしやすい雰囲気作り心掛けています。上手く表現できない入居者様には、職員が思いを汲み取り代弁するようにしていますが一方的に決めつけず入居者様の意思の決定を待つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっていますが、無理強いくることなく、一人ひとりペースに合わせて生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は入居者様に好きな服を選んで着ていただくようにしていますが、季節や気温を考慮してさりげなく声掛けし適切な物と交換していただくなど支援しています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯とみそ汁はホームで作り、お惣菜は宅配を利用していますが、季節の行事などは入居者様と相談し一緒に作っています。	3年前から、おかずは毎日宅配されるチルドのものを提供している。ご飯とみそ汁は職員が作り、刻み食やミキサー食にも対応している。利用者は多くが餅を好むため、正月には白玉粉に豆腐を混ぜて作る餅を提供して喜ばれている。誕生日にはケーキにカードを添え、お茶会にするなど、楽しく食べてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の意向や家族様、かかりつけ医、訪問看護師とも相談しながら、一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取は記録しており十分な食事ができないときは補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のうがい、歯磨き、義歯の手入の声掛けを行い、できるところは入居者様に行っていただき、できないところの介助や仕上げを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。	排泄チェック表を活用して、適時に声掛けし誘導するなど、自然な排泄を支援している。布パンツで自立の方が3人、オムツ使用が1人の他はリハビリパンツ使用となっている。適時の声掛けや誘導によって、リハビリパンツ使用から布パンツ使用に改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便を把握し、かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。水分摂取、軽い運動、散歩などで自然排便ができるよう予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、その時々で柔軟に対応し、一人ひとりのタイミングで入浴ができるようにしています。(入浴したくない時は翌日など)時には、入浴剤で温泉浴やゆづ湯などにしています。	1日9人を目安とし、週2回の入浴となっている。檜の浴槽の木の香りを楽しみながら、会話したり歌ったりして職員との1対1の時間を楽しんでいる。異性介助への配慮から、入浴介助は女性職員が行っている。季節を感じる柚子湯や入浴剤も入れて楽しむ工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファなど休みたいところで休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操、散歩を行い夜間の安眠を促しています。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は緊急時に持ち出せるよう1冊のファイルで管理し、いつでも職員が見られるようにしています。薬が変更になったときはグループセッションにて全職員が把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者ごとに、できること、できないこと、好きなこと、嫌いなことがあるので体調を見ながら、強制にならないよう、調理、片付け、洗濯物たたみなどの家事を担っていただいております。行事やドライブなどで気分転換が図れるよう支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望をお聞きしながら、お花見など紅葉狩りなどドライブをしました。今年は町内の文化祭も開催されたので、感染対策をしながら文化祭の見学も致しました。	コロナ感染対策のため、まだ控える傾向にあるが、周辺の散歩や旧校舎のテラスを歩くことで、外気浴の機会を確保している。また、利用者の希望を伺いながら、お花見や紅葉狩りに沖田地域の近隣の桜や紅葉の名所などに出かけて喜ばれている。また、通院の機会を利用してドライブを楽しむようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持することは認めておりますので、お金のお預かりはしていませんが、入居者様の希望する買い物は家族に話し、立替えの形で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があればいつでも電話や手紙を出したり、外部からの電話や手紙を受け取ることができます。家族にうまく伝えられない入居者様については面会時に伝えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、温度に配慮しながら毎日の清掃を行い清潔を保っております。ソファ、テーブルなど好きなところでくつろげるようにしています。テーブルや椅子もそれぞれ入居者様に合わせて高さを調節したり回転椅子や回転しない椅子など利用いただいております。季節の飾りやゆず湯を行ったり手工芸を飾ったり落ち着いた空間作りに努めています。テラスや校庭の散歩をしながら季節感を感じたり気分転換が図れるよう心掛けています。	居室兼食堂の共用空間は、大型ファンヒーターや空気清浄機、加湿器により室温が一定に保たれ、清掃も行き届いていて清潔である。壁には、手づくりの作品や地元婦人会からのメッセージボードが飾られている。大型テレビやソファ、テーブルが配置され、窓からは温かい光が注いでおり、利用者は介護体操などして楽しんでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置があり、その時々で好きな場所を選べるように支援しています。居室に表札を掲げたりトイレに案内を表示し迷わないように安全に通れるよう通路を確保するようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や家族様と相談し、慣れ親しんだ物を自由に持ち込んでいただいております。入居者と相談しながら居室の配置をしています。	ベッドと筆筒、パネルヒーター、加湿器が備え付けられ、利用者は慣れ親しんだ小物や家族写真、衣装ケース、位牌などを持ち込んでいる。室温はヒーターと加湿器で適温に保たれており、壁には誕生日の記念写真などが飾られ、居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、入居者様やご家族様の了解のもと表札をかけて自分の部屋がわかるようにしています。また、また、トイレの表示を行い安心して生活ができる環境を作っています。		